

第77期事業報告及び計算書類報告の件

2022年6月24日

代表取締役社長 西田憲司

1. 第77期決算トピックス



【売上高は15.8%の増収】… 売上高合計5.386百万円

- ・ 製品・商品は338百万円の増収(前期比+8.1%)、切削屑は395百万円の増収(前期比+85.2%)。
- 黄銅弁は14.6%の増収: [増収] LPガス容器用弁、バルク付属機器 [減収] 設備用
- ・ 鉄鋼弁は2.3%の減収: 「増収」車載用、バルク付属機器 「減収」設備用、船舶用

【営業利益は14.5%の減益】 … 営業利益72百万円

- 減益理由: 黄銅材が当期を通じて高騰しました。(21年4月650円/kgが22年3月850円kg)
 - 樹脂材料、運賃その他のコストも値上がりしました。
- 対処策: 第3四半期において製品値上げを実施させていただき、その効果により 通期において黒字を計上することが出来ました。
- ・次期見通し: 製品値上げにより売上高が全般的に底上げされます。 また、LPガス容器用弁について、競合他社1社の廃業により販売数量の 増加が見込まれます。
 - 黄銅材価格がなお上昇を続けていますので(22年6月1,000/kg)、厳しい 収益状況が続きます。そのため、再度の製品値上げも検討します。

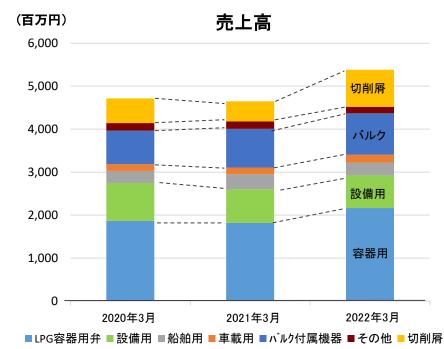
【期末配当】

・ 第77期の期末配当(1株につき1円)を本総会の第1号議案として上程させていただきます。

2. 売上高



単位	ž: 百万円	2020年 3月	2021年 3月	2022年 3月	22-21年 増減
黄銅	LPG容器用弁	1,868	1,817	2,165	348
弁	設備用	354	316	305	▲ 11
	バルク付属機器	521	585	644	58
	その他	0	0	0	▲0
	小計	2,745	2,719	3,115	395
鉄鋼	設備用	528	470	453	▲ 17
弁	車載用	154	154	183	29
	船舶用	280	350	298	▲ 52
	バルク付属機器	261	317	322	4
	その他	76	54	58	4
	小計	1,301	1,347	1,316	▲31
	その他	101	120	93	▲26
	切削屑	573	464	860	395
	合計	4,722	4,652	5,386	733



- LPG容器用弁(売上増):値上効果と競合1社廃業による数量増によるものです。
- ・設備用(売上減):コロナ禍で工事が停滞したためです。
- ・バルク付属機器(売上増):交換需要が持続したためです。
- •切削屑(売上増):

前期はコロナ対策で休業を実施し、工場稼働を低下させたために切削屑の発生が抑えられていました。当期は通常稼働に戻し、かつ黄銅価格が高騰したために、大幅増加したものです。

3. 収益状況



単位: 百万円	2020年 3月	2021年 3月	2022年 3月	22-21年 増減
売上高	4,722	4,652	5,386	734
(うち切削屑)	(573)	(464)	(860)	(395)
売上原価	3,898	3,887	4,542	655
売上総利益	824	765	844	79
販管費	789	681	772	91
営業利益	35	84	72	▲12
営業外損益 NET	▲ 14	\$ 5	▲ 14	▲9
経常利益	21	79	58	▲21
特別損益 NET	0	1	\$ 5	A 6
税引前利益	21	80	53	▲27
法人税等	16	35	13	▲22
当期純利益	5	45	40	▲ 5

【売上高総利益率】

2020年3月17.5%2021年3月16.4%2022年3月15.7%

【売上高営業利益率】

2020年3月O. 7%2021年3月1. 8%2022年3月1. 3%

【2022年3月期】

- 製品値上げと競合社廃業により売上高は拡大しましたが、 黄銅材の価格高騰により原価高となり、収益は伸び悩み ました。
- 経費削減、生産性向上に継続して取り組みますが、既存 の事業だけでは収益改善に限界があるので、事業ポート フォリオの再構築に取り組んでおります。

【事業ポートフォリオ再構築】

- 食品加工分野での製品開発(ろ過機、タンク洗浄ノズル)
- IVTとの合弁事業推進(特殊バルブ、半導体用バルブ)
- LPG製品の中国市場進出
- 業務提携による低温弁事業の抜本的強化

4. 財務状況



単位: 百万円	2020年 3月	2021年 3月	2022年 3月	22-21年 増減
流動資産	3,873	3,717	3,538	▲ 179
うち現預金	199	291	281	▲10
うち受手・売掛金	976	1,285	1,390	105
うち商品・製品	2,055	1,428	1,228	▲200
うち原材料	594	633	603	▲30
固定資産	4,636	4,579	4,637	58
資産合計	8,509	8,296	8,175	▲121
流動負債	2,463	2,389	2,389	0
うち支手・買掛金	472	412	609	197
うち借入金	1,588	1,626	1,419	▲207
うち未払金	114	93	139	46
固定負債	2,253	2,046	1,905	▲ 141
うち借入金	1,115	878	641	▲237
純資産	3,793	3,861	3,881	20
うち利益剰余金	197	194	235	41
負債純資産合計	8,509	8,296	8,175	▲121

【トピックス】

- ① 商品・製品在庫
 - 前期はコロナ対策により休業を実施し、工場稼働を低下させたため、商品・製品在庫がその前の期に比べ大幅に減少しました(約6億円)。 当期も事業環境にあわせて適切な在庫水準にコントロールできました。
- ② 借入金

借入金の返済が進んでおり、設備更新や新たな 投資案件等に対応できる資金調達力の余力が 出来てきました。

【財務指標】

いずれも健全性を維持しています。

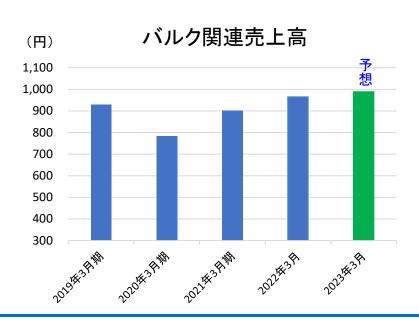
- ① 流動比率(流動資産/流動負債) 2020年3月 157.2% 2021年3月 155.6% 2022年3月 148.1%
- ② 自己資本比率(純資産/総資産) 2020年3月 44.6%

2021年3月 46.5% 2022年3月 47.5%

5. 78期(2023年3月期)業績見通し



	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	
売上高	5,386	5,800	
営業利益	72	70	
経常利益	58	60	
当期純利益	40	40	
配当予想	期末 1円	期末 1円	



- ・ 当第3四半期に実施した製品値上の効果により、また、LPガス容器 用弁については競合メーカー1社が廃業した影響で数量増加が見込 まれ、さらには、バルク関連機器の交換需要が継続し下支えするため、 売上高は着実に増加する見込みです。
- ・ 当期において、黄銅材の価格が高騰しましたが、78期においても 世界的にあらゆる天然資源の需給不安が継続すると考えられますの で、収益面の厳しさが続くものと予想しております。



6. 事業展開

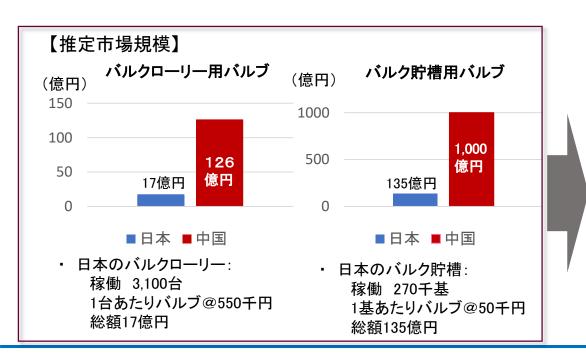


	コア事業	拡大事業	新事業	提携事業
分野	LPG	LNG·水素	食品加工用機器 アグリ事業	IVTとの合弁事業
77 期取り組み	製品値上げ一旦完了LPG事業の中国進出の検討を開始中国側パートナーの候補先選定に着手	・ 水素用バルブを出荷 (水素ステーション向け、 宇宙開発施設向け)・ LNG燃料船(自動車 運搬船)燃料ユニット 用バルブを出荷	 きくらげ栽培方法を確立し、量産を開始 ぶどう栽培のための土壌改良を実施 ろ過機を大型化し、大手ワイナリー用製品を開発 	 ・(株)MS-IVTを設立 ・IVT工場の甲府移転は 延期 ・IVT製品製造マニュアル 作成業務を当社が受託 ・中国向け半導体製造 装置用クリーンバルブ 部品調達・試作開始
78 期実行計画	・LPG事業の中国進出 につき、中国側JV パートナーを決定し、 基本契約を締結して 中国進出を具体化	・ 水素用バルブの販売を拡大・ LNG用バルブの販売を拡大・ 製品開発の業務提携により、低温弁事業を抜本的に強化	 きくらげ菌床生産方法を確立 ぶどうの試験栽培と醸造施設建設準備 製品開発の強化ミストノズルサニタリーバルブウルトラファインバブル 	・ 中国向けクリーンバルブの量産・出荷・ クリーンバルブエ場の中国進出検討

7. LPG事業の中国進出



- ・ 総人口が5億人を超える農村部にLPガスを届けるシステムとして、中国政府は、LPGバルク貯槽の利用を進める方針です。(2021年2月中国共産党中央委員会決定)
- 日本では1997年からLPGバルク貯槽の設置が始まり、現在約270千基が稼働しています。中国においては5~10年間で約2百万基のLPGバルク貯槽が設置されると予想されています。
- ・ 当社はバルク貯槽用バルブの国内トップメーカーでありますので(市場シェア60%)、その経験と 技術を活かして、中国企業と中国市場において共同事業を進めるべく準備中です。





中国では、今後5~10年の間に、1,000~1,100億円のローリー用、貯槽用のバルブ類が設置される可能性が高いと予想します。

- → 年間100~200億円の市場規模
- → 10%のシェアでも、年間10~20億円のビジネス となります。(当社の日本でのシェアは60%)

8. 低温弁事業



大型LNG燃料船(自動車運搬船)の燃料 供給ユニットに低温弁を採用いただきました。

大型船向けは初受注となりました。



当社低温弁の ユーザー様が 拡大しています。

* 株式会社三井E&Sホールディングス様提供

水素ステーションに液体水素 バルブを採用いただきました。

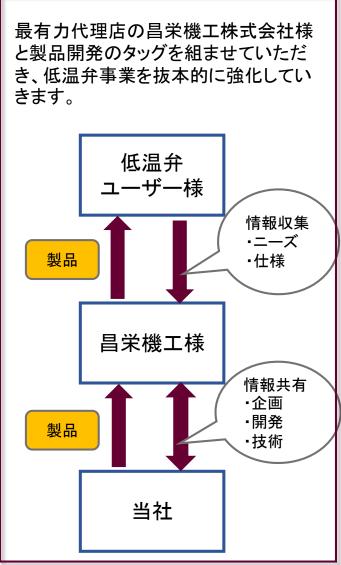


© 岩谷産業株式会社様

ロケット実験場配管に液体水素 バルブを採用いただきました。



*国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)様提供



9-① IVTとの合弁事業





- インターバルブテクノロジー(株)が有する中国のビジネスネットワークを 利用して当社にもメリットが大きい合弁事業を展開していきます。
- ・ 直近では、MS-IVT製品として、半導体製造工場向けクリーンバルブの 量産立上げを行う予定です。
- 当社が進めているLPG事業の中国進出にもIVTグループのサポートを 期待しています。

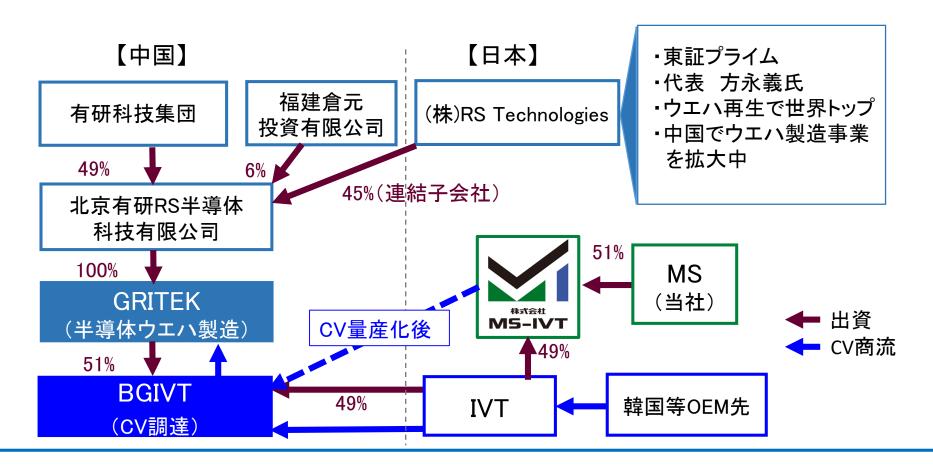
設定目標	77期結果	78期取り組み
① 合弁会社設立	(株)MS-IVTを設立、商標登録も行い ました。	•••
② IVT製造部門(特殊バルブ)の MS甲府工場内への移転	人員異動できず当面移転をホールド。 将来の移転への準備として、MSが 製造要領書作成業務を受託しました。	主要製品について製造要領書を完成し、MSでも特殊バルブの製造が行えるように準備します。
③ IVTによる中国半導体製造工場 向けCV事業の移管	コロナの影響で当初計画より約6か月 の遅れとなりました。	MS-IVT製品として試作・量産立上げを完了させます。
④ 中国でのCV工場立ち上げ検討	コロナの影響で未着手となりました。	CV製品量産に目途が立ったタイミン グで、中国工場立上げを検討します。

* IVT=インターバルブテクノロジー株式会社 CV=クリーンバルブ

9-② IVTのCV事業



- GRITEKは半導体ウエハの製造会社です。
- GRITEKが使用するCVをOEM調達するためにBGIVT (= Beijing GRITEK & IVT)が設立されました。
- BGIVTでは中国内でCVの製造工場設立を計画しています。



10. アグリ事業/新事業



アグリ事業を行いながら、6次化農業や食品加工業に必要な機材(バルブ、ノズル、カップリング +機器類)の開発を行っています。



11. 緑の多い工場づくり



工場東側敷地(約7,500坪)をぶどう圃場、ワイナリーに転換することで、 緑の多い工場づくりを進めます。



12. ぶどう圃場・ワイナリー完成予想図





13. 事業戦略



あくまでも、LPガス供給機器の製造で培った要素技術を活かした事業展開を図ります。

